

# 川を守り 水を活かして 1世紀



瀬田川洗堰  
築造100周年

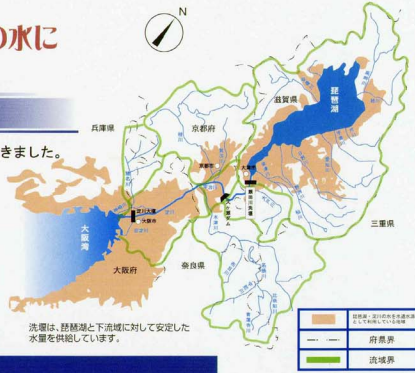
# 暮らしを支えて 100年

# 瀬田川洗堰

多くの人々が、琵琶湖の水に依存しています。

## 利水

琵琶湖の水は昔から人々の暮らしを支えてきました。滋賀県はもとより、京都府、大阪府、兵庫県などの京阪神地域に生活用水、農業用水、工業用水を供給し続けています。琵琶湖からの水を生活用水に利用している人々の数は、京阪神エリア1400万人にのぼります。



洗堰は、琵琶湖と下流域に対して安定した水量を供給しています。

## 下流域における水不足被害

平成6年の渇水では、淀川流域で20%の水制限やプール使用自粛などの影響を受けましたが、琵琶湖からの水供給で影響を最小限にすることができました。

## 安定した水量の維持の必要性

渇水は、下流域に生活する人々、そこに生きる生きものの生態環境に悪影響をもたらします。



▲淀川に生息する希少種のイタヤシロギス(天然記念物)



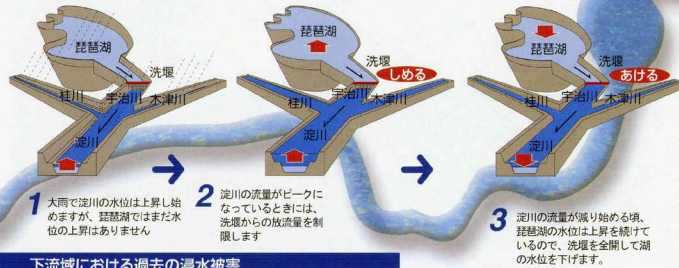
瀬田川洗堰は、琵琶湖・下流全体の水の流れをコントロールし、洪水や渇水が起こらないように水量を調節しています。

洪水被害を防ぐために、洗堰は頑張っています。

## 治水

私たちの生活に欠かすことのできない水も、台風や大雨などによる洪水によって、堤防が壊され家屋の浸水など、大きな被害を及ぼすことがあります。瀬田川洗堰は、琵琶湖沿岸や下流域を守るため、琵琶湖からの放流制限をしています。

## 洪水による氾濫を防ぐ仕組み



## 下流域における過去の浸水被害

下流域では、洪水による堤防決壊、家屋浸水などの被害がありました。



▲高槻市本町洪水(大正6年)

▲高槻大森付近の堤防決壊(大正6年)

▲宇治川向原堤の破壊(昭和28年)

水位の調節をして琵琶湖の環境を守っています。

## 環境

恵まれた琵琶湖だからこそ大切にしたい。

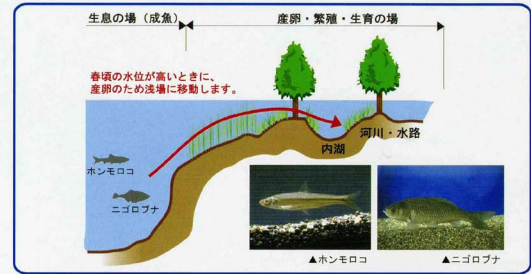
瀬田川洗堰は、琵琶湖に棲む多くの生きものに配慮した操作をしています。



▲西の湖 湖東に流る最大の内湖。ヨシが茂り、陸奥に伸びる水路は昔ながらの水路の風景を良く伝えています。

## 生きものを守る試み

大雨による琵琶湖周辺の浸水被害を防ぐため、琵琶湖の水位を急激に低下させると、ニゴロブナやモロコなどの産卵産育に影響を与えている恐れがあります。そのため、洗堰の操作により、水位低下を抑制するような放流を試行しています。



今までだと

現在の試み



急激に水位を下げてとヨシなどに付着した卵が干上がって死んでしまいます。



徐々に水位を下げることで卵が孵化し、生態系への影響が軽減できます。



# 先人たちの足跡

## 水を治める古今の知恵

大きな被害を引き起こす洪水に苦しめられてきた私たちの祖先は、水を治める努力を重ねてきました。その様子は、さまざまな古文書などからもうかがい知ることができます。



河村瑞賢が黒津八島を築いた時の施工平面図

1699(元禄12年)

- 河村瑞賢は瀬田橋から瀬田川洗堰までの東岸を切り取ることで黒津八島の州を削って2つの島に修形して流れを円滑にしました。その工費総額銀512貫は沿湖200余村に3年賦で賦課しました。



大越知事の功績を記した記念碑

1891(明治24年)  
～1892(明治25年) ●

大越知事、  
瀬田川浚渫工事を  
内務省へ上申し、  
許可下りる。



●1957(昭和32年)  
～1961(昭和36年)

### 現瀬田川洗堰の築造

昭和36年、瀬田川改修計画の一環として、現洗堰が完成しました。瀬田川の浚渫とあわせて、洪水時の瀬田川の疎通能力が飛躍的に増大し、湖岸の浸水被害が軽減しました。



### ●奈良時代

行基の大日山掘削計画  
下流の氾濫を恐れ、計画断念。  
山頂に大日如来をまつり、  
この山を削ればたたりがある、  
との言い伝えを残す。



●1670(寛文10年)

将軍家綱、別所川、赤川のデルタ地帯及び瀬田唐橋上下、大戸川を浚渫。

1699(元禄12年) ●

●1791(寛政1年)～1831(天保2年)



### 藤本太郎兵衛親子の活躍

高島郡深溝村(今の新旭町)の庄屋藤本太郎兵衛は、天明5年(1785年)以降46年間、親子4代にわたり琵琶湖治水の必要性を、上下流800余の藩・村を説得すると共に幕府の許可を取り付け、ついに天保2年(1831年)に瀬田川の浚渫に着手しました。実に河村瑞賢以降130年後の大浚渫でした。

●1905(明治38年)

### 洪水被害を減らした 南郷洗堰の築造

明治33年～41年にかけて行われた淀川改良工事で、この洪水と渇水という相反する2つの事項を解決するために設けられたのが、旧洗堰(南郷洗堰)でした。明治38年(1905年)に築造されたこの洗堰は、レンガ造りの堂々たる姿で、木の角材を人力で落として川の流れを調整する角落とし堰でした。現在の技術水準からみるときわめて単純な仕組みですが、この洗堰により、琵琶湖周辺ならびに下流の宇治川・淀川を洪水から守り、水道・工業・農業用水を供給するという大きな役割を果たしました。



### 命がけて挑んだ 嵐の中の開閉作業

操作は、倉庫で操作用車に角材を積み、所用の箇所へ運搬して1本づつ下ろし、引き上げは逆の手順で実施したため、全開に丸2日、全閉に丸1日かかる大変な作業でした。



